

平成28年度アルミニウム二次合金地金・同二次地金並びに
鋳物・ダイカスト用アルミニウム一次合金地金需要見通し

平成28年3月25日
(一社)日本アルミニウム合金協会

平成27年度の日本経済は、「大胆な金融政策」、「機動的な財政政策」、「民間投資を喚起する成長戦略」を柱とする経済財政政策の推進により、雇用・所得環境等が改善する中で緩やかな回復基調が続いた。その一方で、中国を始めとする新興国経済の景気減速の影響等もあり、輸出が弱含み、個人消費及び民間設備投資の回復に遅れがみられた。

このような経済環境の中で、当アルミニウム合金業界においては、コーヒー缶やボトル缶の需要増加により圧延向け需要が堅調な伸びを示したものの、消費税増税の影響が長引くなかで国内完成車生産が引き続き前年割れとなったことにより、主力の鋳物・ダイカスト向け需要が伸び悩んだことから、平成27年度アルミニウム二次合金地金・同二次地金需要は1,594,200トン(対前年度比97.7%)が見込まれる。

このような状況の中で、平成28年度アルミニウム二次合金地金・同二次地金需要見通しを次のとおり策定した。

- (1) 鋳物・ダイカスト向け二次合金地金需要については、①2017年4月の消費税増税に伴う駆け込み需要等で国内自動車生産の増加が見込めること、②自動車メーカーの海外での完成車生産増加による四輪海外生産用部品輸出が緩やかながら引き続き堅調に推移することが期待されるため、プラス成長が見込まれる。
- (2) 圧延向け二次合金地金・二次地金需要については、飲料用アルミニウム缶需要が引き続き堅調が予想されるため、微増が見込まれる。
- (3) 鉄鋼・その他向け二次合金地金・二次地金需要については、国内粗鋼生産が前年度並みと予想されるため、ほぼ横バイが見込まれる。

以上の状況から平成28年度のアルミニウム二次合金地金・同二次地金需要見通しを、2年ぶりのプラス成長となる1,642,200トン(対前年度比103.0%)と策定した。

また、平成28年度鋳物・ダイカスト用アルミニウム一次合金地金需要見通しは、234,900トン(対前年度比101.4%)が予想される。

平成 28 年 度

アルミニウム二次合金地金・同二次地金需要見通し

平成 28 年 3 月 25 日

(一社)日本アルミニウム合金協会

(単位：トン)

項 目	平成 26 年度	平成 27 年度実績		平成 28 年度	
		見 込 み	前年度比%	見 通 し	前年度比%
鑄 物	340,536	331,700	97.4	347,600	104.8
ダイカスト	973,116	942,300	96.8	971,900	103.1
圧 延	200,438	205,800	102.7	207,900	101.0
鉄鋼・その他	118,200	114,400	96.8	114,800	100.3
計	1,632,290	1,594,200	97.7	1,642,200	103.0

注 1) 輸入地金を含む。

注 2) 平成 14 年 1 月より、経済産業省統計の統廃合があり、鉄鋼・その他は当協会推定値となっている。

平成 28 年 度

鑄物・ダイカスト用アルミニウム一次合金地金需要見通し

(単位：トン)

項 目	平成 26 年度	平成 27 年度実績		平成 28 年度	
		見 込 み	前年度比%	見 通 し	前年度比%
鑄 物	160,849	165,200	102.7	167,300	101.3
ダイカスト	67,246	66,100	98.3	67,600	102.3
計	228,095	231,300	101.4	234,900	101.4

注 1) 輸入地金を含む。